

2026.3.26 (木)
第36回例会
(通算3845回)

2025-2026 年度 釧路ロータリークラブ会報

会長スローガン「笑顔と誇りを胸に、挑戦するロータリー」

会 長 荒井 剛
副 会 長 池田 一己
幹 事 横田 英喜
編集責任者 クラブ会報・雑誌・公共イメージ委員会

例会日 毎週木曜日 12:30 ~ 13:30 夜間例会 18:00
例会場 釧路センチュリーキャッスルホテル
事務局 釧路市錦町 5-3 三ッ輪ビル 2F
☎ 0154-24-0860 📠 0154-24-0411

2025-2026 年度
国際ロータリーテーマ

『よいことのために手を取りあおう』
UNITE FOR GOOD

2025-2026 年度
R1 会長 フランチェスコ・アレツォ
第 2500 地区ガバナー
佐渡 正幸 (釧路北 RC)

本日のプログラム 会員卓話「ラーメンを通じた街づくりの挑戦 麵遊会 20 年の軌跡」(プログラム委員会)

次週例会 下期情報集会報告 (クラブ研修委員会)

- ロータリーソング：それこそロータリー
- ソングリーダー：濱口 憲太君
- 会員数 105 名
- ビジター
- ゲスト

会長の時間 荒井 剛会長



皆さん、こんにちは。今日の例会は、西田さんによるラーメン・フェスタ 20 年の軌跡ということで、すごい楽しみにしております。ラーメンがテーマなので、今日のお昼を本当は、ラーメンをホテルにお願いしようと思っていたのですが、伸びてしまうかもしれないので止めました。

ラーメンにまつわる話をしたいと思います。私は釧路出身ではないので、20 年くらい前に横浜から釧路に来たその当時でも、「釧路といえば、醤油ラーメンです」と言われて釧路ラーメンを食べました。東京で食べたラーメンというのは、いわゆる「支那そば」ですが、東京では 20 年前なので自分も若かったのでコッテリ系のラーメンをたっぷり食べていて、北海道と言えば「味噌・バター・コーン」と洗脳されていたイメージで釧路に来ました。初めて食べた醤油ラーメンが「カツオ出汁」で、チリジリの細麺、ということで衝撃を受けたのです。

ラーメンにまつわる話をしたいと思います。私は釧路出身ではないので、20 年くらい前に横浜から釧路に来たその当時でも、「釧路といえば、醤油ラーメンです」と言われて釧路ラーメンを食べました。東京で食べたラーメンというのは、いわゆる「支那そば」ですが、東京では 20 年前なので自分も若かったのでコッテリ系のラーメンをたっぷり食べていて、北海道と言えば「味噌・バター・コーン」と洗脳されていたイメージで釧路に来ました。初めて食べた醤油ラーメンが「カツオ出汁」で、チリジリの細麺、ということで衝撃を受けたのです。

20 年間釧路に住んで、釧路ラーメンが大好きになりました。あっ、私が大好きなのは『純水』のラーメンですけどね。(笑い) 息子もお世話になっておりますので。

この釧路で食べたカツオ出汁の醤油ラーメンはホントに美味しくて、今、私が東京の人に説明するとしたら、

いろんなラーメン、コッテリラーメンなどを食べたとして、最終的にたどり着くのが釧路ラーメンではないのかと。あのカツオ出汁で、まあ、健康にいいとは言えないかもしれませんが、あの辛み、優しい醤油味のラーメンが最終的なラーメンの形態ではないかと私は思っていて、「ぜひ、釧路ラーメンを食べてください」と東京の人たちに言っております。

そんなラーメンですけれども、どんなテーマでもロータリーに関わるものはないかなと調べたりするので。今回は、ラーメンとロータリーに関わるものはなかったのですが、ひとつだけ見つけました。

上尾ロータリークラブの会報に載っていたのですが、そこで報告されていたのが日本薬科大学とラーメン店で有名な「麵屋武蔵」がコラボして限定発売したラーメンがあります。私は釧路出身ではないと話しましたが、この時期になると、東京に住んでいた時にすごくいやな思いをしたのです。わかりますか、花粉症です。釧路にはないので最高ですけど。その花粉症対策のラーメンを日本薬科大学と麵屋武蔵がコラボして発売したのです。名づけて「華爽快 (はなそうかい) ラーメン」です。乗っているのはキクなどで、さすが薬科大学ですから、「これは、花粉症に効く」という食材・成分を伝えて、それをアレンジしたものが一時期はやったのです。それが 2018 年の花粉症シーズンに麵屋武蔵の虎嘯 (こしょう) 支店で出したらしいのです。すごく売れに売れたのですが 1 杯作るのに 3000 円くらいの原価がかかるのですが、でも、それを 1000 円くらいで売っていたのです。それは、この

花粉症対策でコラボして出したことでたくさん取材を受けて、その宣伝効果があったので原価の問題ではない、と言っていたのです。

その期間限定で終わっていますので、それ以上のことは出ていません。このようにコラボで出すということでも話題になるので、今回はロータリーとラーメンで調べてみると、そこが唯一出てきましたので、それを紹介させていただきました。

この後の卓話が待っていますので、ラーメンタイム、3分以内で収めようと思って終わります。以上、よろしく願いいたします。

幹事報告 横田 英喜幹事

4月に入りますと分区事業、地区の事業がありますが、4月4日にIMが開催されます。参加される方はよろしく願いいたします。

その翌日の案内になります。第7分区の事業で「飲酒運転撲滅および交通事故防止キャンペーン」を最近開催しております。今年は4月5日日曜日の12時から釧路町のイオン釧路店で分区のメンバーが集まってキャンペーンを行いたいという連絡を受けております。釧路クラブの参加できる方は参加していただきたいと思っております。集合時間は11時40分で、イオン釧路店のマクドナルドがある方の入り口で行われますので、詳しくはホワイトボードの左下に掲示しておりますのでよろしく願いいたします。

■本日のプログラム■

会員卓話「ラーメンを通じた街づくりの挑戦 麵遊会20年の軌跡」

クラブ運営委員会 佐藤 貴之委員長

皆さま、こんにちは。クラブ運営委員長の佐藤です。本日はプログラム委員会担当の例会となっておりますが、どうしても私から本日の講師を紹介させていただきたいと濱口さんに今日は私で、と無理を言ってお願いをさせていただきました。

本日の講師は、われらが釧路ラーメン麵友会の創設者であります西田一博君です。

私に3分くらい時間をいただきましたので、西田さんの話を聞きたいかもしれませんが、私の当時の思いを少しお話させていただきたいと思っております。

私はラーメン店主なのですが、麵友会ができた時には私はまだ独立をしていなくて、ロータリーで言うところのチャーターメンバーではなかったのです。

西田さんが作った当時の釧路のラーメン業界の状況を先輩からよく伺っていました。2000年の前半は日本全体がラーメンブームで、今よりも勢いがあった時代でした。テレビをつけたら「ラーメンランキング」をやっていたり、雑誌を見たら「ラーメン特集」をして

いたり、北海道ウォーカーでは「ラーメンウォーカー」と出すような感じの時代だったのです。

釧路もラーメン業界は今よりも勢いがありました。ただ、ラーメン店主にはクセがあって、みんなギスギスしていた、と当時の先輩たちが言っていました。ラーメン店主の中にも横のつながりを持ちたいという方が結構いたのですが、それを自分たちではまとめることもどうすることもできないと。ラーメンを食べに行っても、ラーメン店主は互いに分かり合っているのだけれども、そこから先に進めないということも先輩たちが言っていました。

そこを、まとめてくれたのが西田さんだったのです。当時の有名な話ですけれど、西田さんにいろいろなラーメン店を回っていただいて店主を説得するのですけれども、やはり個性の強い店主が多いので一筋縄ではいかない、一回では「ウン」と言ってくれる方が少なく、何度も何度も西田さんが店に行ってくれていたのです。ラーメン食べて、トイレで吐いて、また次の店に行き、食べてトイレで吐いて、というのを繰り返して。これは西田さんの話に出てくる話を先に言うのですけれども、そのおかげで私たちはひとつにまとまったのです。

ラーメン店主が今この会を結束してできているのは、西田さんのおかげであると、私たち店主には感謝の気持ちしかありません。私がここにいるのは西田さんのおかげだと皆さまには思っています。私は奇跡のラーメン店主のロータリアンだと思っています。のちには私も西田さんの思いを引き継いでラーメン麵友会の会長になるのですけれども、やはり創設者の思いよりは弱くて。西田さんは本当に偉大なのだと皆さまにご理解いただいて。

西田さんは最近、ロータリーに入られて、私になぜか「純水さん」と敬語を使ってくるのです。とんでもありません。入った瞬間に私は抜かれておりますので。そういう方です。

タイマーがなくなってしまいました。3分過ぎてしまい、すみません。私の思いが伝わったでしょうか。こういう感じで釧路ラーメン麵友会が存続しておりますので、皆さま、今日の話聞いて、今日の帰りにでもラーメンを食べていただければと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

それでは、西田さん、よろしく願いいたします。

会員卓話 西田 一博会員



過分なる紹介をいただきまして本当にありがとうございます。改めましてこんにちは。有限会社厚岸清掃社の西田と申

します。昨年8月にロータリークラブに入会させていただきまして、本日まで皆さまにお世話になりました。ありがとうございます。

只今ご紹介いただいた佐藤さんのお話でもういいのではないかと思います。本日は大変恐縮しております。昨年10月に藤井委員長にお声がけをいただいて、この半年、何を話したらいいのかと思っていました。実は、私が麵遊会を離れてから15年くらい経ちます。

私にとっては過去の話なのですが、会としては、現在も佐藤さんを始め店主の皆さんが熱い思いをもって活動しておりますから、皆さまの応援になればと思い、本日受けさせていただきました。今日は、歴代会長の佐藤さんもおりますから、わずかな時間と思いますがお話をお聞きいただければと思います。

なぜ厚岸の人間が釧路の街づくりを、と思っている方もいると思います。私は実は、生まれも育ちも釧路なのです。小中高は釧路の学校に通って、大学は札幌の学校に行きました。就職は東京で、電気系の会社に勤めていましたが、今の会長に「帰って来て会社を手伝ってくれないか」と言われて帰って来ました。平成9年から会社に勤め、令和2年から会社代表をさせていただいております。家族は、妻と娘がいて、娘はいま札幌にいて看護師をしております。会社の創業者は私の祖父です。昭和39年に創業し、現会長は西田哲己と申しまして、現在厚岸ロータリークラブの会長をしており、創業者の甥にあたります。これまで、二人の関係を「叔父さん」とか「お兄さん」とか呼ばれていたのですが、実は「私の親父の従弟」であって代が一つ上なので、これを機会にお見知りおきいただきたく思います。現在弊社は、厚岸町で一般廃棄物のごみ収集処理業務をメインの業として、産廃処理業や上下水道施設の維持管理業など、厚岸町で60年にわたり事業をさせていただいております。

麵遊会は、「ラーメンを通じた街づくりを目指そう」を合言葉に2003年に設立させていただきました。今から23年前になります。現在の麵遊会第7代会長は、景雲中学校の前にある「ラーメン穂澄」の堀籠さんです。先ほどチラシをお配りしましたが、店主が12名、市民会員が90名、そしてこの会を応援して下さる賛助会員の皆さまが9社おります。あの当ても「麵遊会はラーメンの組合なのか」「ラーメン愛好家の集まりか」と言われたのですが、この20年、このような形で「ラーメンを通じた街づくり」活動をさせていただいております。

これまで取り組んだイベントの代表例を紹介させていただきます。

佐藤さんが麵遊会第5代会長の時に行った大規模ラーメンイベントです。イオン昭和ショッピングセンターの駐車場で、ここ十数年にわたり、継続的に大規模なラーメンイベントを行っております。皆さん、ご来場

いただいたことはありましたか。これまで本当に多くの皆さまに来ていただいております。地元より15店が出店し、網走、北見、十勝、旭川など、ほかの地域からも友情出店していただきました。提供したラーメン杯数は約3万食です。ここ十数年で、釧路の夏の風物詩のイベントに成長してきました。

イベント当日の朝は、純水佐藤会長のあいさつから始まり、出店者の皆さんを紹介し、ボランティアの皆さんと共に「いらっしやいませ」のあいさつでラーメンイベントがスタートします。11時開店なのですが、ご家族連れの方、若い学生の方、様々な皆さんに参加していただいております。食べたい店の前に並び現金を払ってラーメンを受け取り、席に移動してラーメンを食べていただきます。どんぶりは小さいカップで550円。もともとは350円でやっていたのですが今は550円で販売しています。

こちらはステージイベントの様子です。FMくしろさんには長らくご協力いただいております。多くの市民団体の皆さんにも参加していただいております。また、市内で飲食業をされている皆さんも出店していただいております。近年では、多くの学生の皆さんがボランティアとして参加しています。こちらの写真は、地元高校の放送部の皆さんですね。アナウンスのお手伝いをしていただいております。

このように麵遊会は長らくこのイベントをやってきましたが、夜になるとこのイベントは一変します。このイベントの大きな特徴でもあります。イベントは昼11時から夜中12時までやっているの、夕方から夜の10時頃までが来場者の最大のピークとなります。こちらの写真は、店舗前の列の様子です。このようにイオンの2階から見ると、会場内のゴチャゴチャした様子が分かります。ボランティアは夕方から帰ってしまいますから、我々のような古参メンバーが頑張っているんです。これが毎年毎年続いているんです。ラーメン店の皆さんも、仕込みをしながらの参加ですから、朝から晩までフル活動で大変な思いをされていると思います。

このイベントを長くやってきて感じるの、ご来場のお客さまも慣れてきたのか、店の前の列にもきちんと並んでいただけますし、ラーメンを席まで持ち歩くのにも、ぶつかったりなどのトラブルも、過去ほとんどなかったです。食器下げ口の所でも、皆さんが並んでリサイクルにもご協力いただいております。とても良いイベントに成長しているなと思います。また、出店者の皆さんは、数日前から会場駐車場の草刈りをしたり清掃したり、自分たちで会場設営も行っています。本来、これくらいの規模のイベントであれば、イベントの方がいて、ラーメン店の方は出店するだけだと思いますが、麵遊会が過去からやってきたイベントは、市民の皆さんと共に作り上げるイベントという思いで

やっていますので、出店される店主の皆さんの意識もとても高く、イベントの始まりから終わりまで、すべて自分たちでやって行こうと、これまで行ってきました。これもこのイベントの風物詩なのかなと思います。

麵遊会はイベント以外にも活動をしておりますが、この新聞記事は、今から9年前のもので、純水佐藤さんが会長になった年、市内の小学生向けに行った食育活動などが紹介されていて、こういった地域貢献の活動も佐藤さんが会長の時に行っておりました。またの機会があれば紹介させていただきたいと思えます。

何にでも物事には始まりがあるのですが、これは当時の設立趣意書です。市民にとっては「ラーメンで街づくりを目指そう」。そして先ほど佐藤さんも話しておりましたが、店主の皆さんにとっては、当時は横のつながりがなかったので、その受け皿としてこの組織を作って、みんなで勉強し、技術を高め、いい商品を提供して行こう、という想いがここにつらつら書いてあります。そして、一番下に、その設立代表者として私の名前が書かれているのです。当時は、若干31歳でした。この会は多くの皆さまのご協力をいただいて本当にありがたく思っております。麵遊会はすぐに来た訳ではなく、いろいろ経緯があって設立されたものですから、昔話になりますが時間の許す限り話させていただきます。

麵遊会の設立の4年前になるのですが、1999年に浪花町にある「十六番倉庫」を文化ホールみたいな形で再生させようという取り組みがありました。私が東京から戻ってきて、たまたま縁があってそのNPOの運営に携わることになったのですが、その翌年に自主企画として行ったのが、ラーメンの屋台村のイベントだったのです。当時の古い写真を探したのですがなかったもので、これは開催3年目の写真です。このイベントはかなり昔の話なので皆さんは覚えていないとは思いますが、これは会場の様子の写真ですが、当日は多くの皆さまにご来場いただきました。2000年ですから今からもう26年も前になるのですね。現在も末広でラーメン店をされている「河むら」さん、「秀航園」さんなど、多くの皆さまに参加していただいたイベントでした。当時は倉庫のNPOの理事に道新さんがいて、スタッフにも道新の記者さんがいたので、たくさん記事を書いてくれたものですから多くの皆さまに来ていただき、用意した1,500食のラーメンが2時間半であっという間になくなってしまいました。大変申し訳なかったなというのを今でも記憶しております。

そもそも「なんでラーメンなのだ」と当時よく言われました。当時はラーメンのブームがあって、日清のCMでも「北海道三大ラーメン」が有名でした。一方、

釧路はどうだったのかというと、「釧路ラーメン」という言葉がなく市民権を得てなかった。ただ、「家庭の味」として、地域の食文化としては認められている部分がありました。私もあの時、他の街にもよく行っていましたから、他の街とは明らかに違う「釧路のラーメン」は、もっと有名になっていいのではないかと、当時漠然と思っていたのです。久しぶりに釧路に帰ってきた当時も、何とか釧路を元気づけたいという思いがあったものですから、このNPOの活動を知り参加させてもらい、「ラーメン屋台村のイベント」を企画開催したのが事の始まりでした。

言うのは簡単ですけど、実際はどうするのだということ。当時は考えが安易でした。当時は駅前などにラーメン屋台がありましたので、最初は屋台を引っ張ってやればいいと考えたのですがことごとく断られ、その後も市内の店舗を回ったのですが断られました。あの当時は、「他のラーメン店とは一緒にできるわけがないだろう」と拒否反応はすごかったですね。実際「そんなイベントなんて出来ないだろう」と言われ続けていたのが当時の状況でした。それでも拾う神じゃないですが、今でも末広で営業されておられる「河むら」の河村社長に救われて、ラーメンづくりのノウハウや必要な機材などを教えていただき、このイベントを開催することとなりました。

当日は、本当に多くの皆さまにご来場いただき、釧路でこんなラーメンの屋台村イベントなどなかったものですからとても反響も大きくて、翌日の北海道新聞1面でイベントが紹介されました。あの時、『釧路ラーメン』という言葉が初めて全道の皆さまに知れ渡るきっかけとなったイベントではないかと思えます。これ以来、本当に多くの皆さまからの反響が大きくて、取材もいっぱいありました。多くの皆さんにお声がけいただいて、私は、あの日から一躍「ラーメンの西田」ということになりました。

少しだけ自慢させてもらおうと、道新の3面にあります全道版の『人』、その時々活躍されている方が載る欄があるのですが、私にとっては最初で最後だと思っております。2年目の2001年に、イベントの前に道新さんに掲載させてもらいました。こちらの記事は道新さんの記事です。釧路新聞さんにもいろいろご協力いただきました。これ以降私たちは、このイベント活動を通じて麵遊会設立に向けて動き出したというわけでありませう。

2つ目の転機になったのが「北海道遺産」です。北海道遺産って最近あまり聞かなくなったのですが、皆さんご存じですかね。昔は北海道が主体でやっていたのですが、北海道の有形無形の財産を道民に残したい宝物として、当時は北海道遺産協議会がそれを認定していたのです。現在は北海道内に74の北海道遺産があると聞いています。平成13年に「北海道のラーメ

ン」他 24 件が選定されたのです。当時その担い手団体を協議会が探していて、すでに札幌、旭川、函館は市民業界団体がその担い手団体として認定されたのですが、私たちもありがたいことにそれまでの活動が認められて、「北海道のラーメン（釧路ラーメン）」の担い手団体として認定をいただきました。この写真が、当時の北海道遺産の認定授与式です。札幌から北海道遺産協議会の辻井会長がわざわざ釧路にまで来ていただいて認定式を行いました。これで私たちも名実ともに、胸を張って「北海道第 4 のご当地ラーメン」ということで、麺遊会がスタートすることとなりました。

3 つ目の転機になったのが、これは麺遊会を設立した後の話になりますが、2005 年に大きなラーメンイベントをさせてもらいました。2005 年といえば、釧路青年会議所が北大通で夏に「霧フェス」をやったのですが、実は私たちもその年の秋に M O O の岸壁でこっそりとイベントをやっておりました。当時は、函館か、釧路か、という規模の北海道でも最大級のラーメンイベントを開催しました。我々だけでは到底できませんので、多くの皆さまを巻き込みご協力いただきながらこの開催にたどり着きました。M O O のエプロンで 17 店の皆さまにご協力いただいたのですが、イベント規模感は現在の「ら・フェスタ」と同じくらいですね。十六番倉庫で 5 年行ってきたラーメンイベントの集大成として、このイベントを開催させていただきました。

これは当時のポスターですが、真ん中に写っている方は、豚骨ラーメン発祥の地といわれる九州久留米市「大砲ラーメン」の香月さんです。間違いなく、当時日本のラーメン業界の頂点にいた方をお呼びしました。左の方は新横浜の「ラーメン博物館」に出店していた函館まめさんの岡田社長です。当時、道外からの超有名店をお呼びして、下にはズラッと地元店主の皆さん並んでおりますが、皆さんと一緒に開催させていただきました。10 月の土日の 2 日間で開催し、来場者数は 2 万 7000 人ほどに来ていただき、1 万 5000 杯ぐらいの食数を皆さまに提供することができました。

この写真は、店の前の様子です。現在とそんなに変わらないような流れですね。こちらは「大砲ラーメン」の店の様子です。こちらはステージイベントの様子ですが、FM くしろさんとは、このころから一緒にイベントをさせていただいております。また、このイベントは釧路市と共催事業だったので、名誉大会長は当時の伊東市長・現代議士で、こちらは市長にあいさつをいただいているシーンですね。伊東尚悟君に似ていますね。地元店にもこのように並んでいましたが、招へい店では 1 時間以上も待つようなことになっていました。

先ほど紹介した久留米の香月さんは、呼んですぐ来られるような方ではなくて、私たちは 2 年ぐらいかけて呼ぶ準備をしました。話が少し前後しますが、私はこのイベントの 2 年前に「北海道ラーメンフォーラム」を道新と共催事業で開催しました。写真一番左の方は公立大の小磯先生で、当時道内でも、私たちと同じような活動をしている函館や旭川の方にも声をかけて「ぜひ釧路に来て、みんなで、ラーメンで北海道を盛り上げないか」とこのイベントを企画したのです。私は、香月社長にも、ラーメンを通じた街づくりへの想いを手紙に書き、不躰ながら本人に送ったら、「よし分かったぞ」と言ってくれて釧路に来ていただいたのが、イベントのきっかけでありました。

これは後々の事業報告を兼ねた道新の記事のコピーです。当日、香月社長には基調講演もしていただいて、この方はただのラーメン店主ではなく、地元久留米でもいろいろ頑張っている方ですから、「ラーメンは、街を救う」ということを実体験からお話されていきました。パネルディスカッションの中では、われわれ市民 4 人に対して「みんな、馬鹿者だね」「ラーメンで街づくりをしてくれてありがとう」と言っていたら、大変実り多いイベントとなりました。このイベントがきっかけになり、私は香月社長と良い関係を築かせてもらい、その後釧路に来ていただくことになりました。

もう少しだけ香月さんを紹介させていただくと、すでに久留米市ではこういったイベントの仕掛け人として活躍しておりました。釧路に来ていただいた翌年 2004 年には、国民文化祭が久留米で開催されました。「大規模なラーメンイベントをやるからお前も見に来ないか」と言われて私は翌年久留米に行き、釧路でもやりたいと思うようになりました。これが当時の久留米のイベントです。イベント期間はちょっと長かったのですが、20 店以上の皆さんが出店されて、20 万人以上の来場者がいたという、とんでもないイベントをされていた方でした。

これを実際釧路で開催しようとする課題は山積みでした。まずは会場をどうするかが最初の大きな課題でした。説明しますと、河畔駐車場でやろうと思ったのですが、市には相手にされませんでしたので、M O O さんに話を持っていって快諾をいただき、その後港湾部と協議し、安全対策をしっかりと行うことで使用の許可をいただきました。次に問題になったのが、各店で 1000 食以上のラーメンを作るのにはどうしたらいいのか、でした。給排水の問題が非常に大きな問題でした。

これが当日の会場図面です。たかがラーメンのイベントですけど、これだけ真剣に図面を書いた「変態な男」がいたのです。それが「本間弘人」さんです。当時の資料を探しているうちに、この本間さんの若い

頃の写真を見つけたからどうしても出したくて。この写真は設営の様子ですが、測量から始まって、店主さんが作る店舗を作ってもらって、安全対策だけはしっかりとお願いしたので、このようなフェンスを作ったりして、彼にはかなり無理を言ったのですが、全て叶えてくれて、本当にこのイベントの立役者でもありました。こちらの写真は、久留米から来た皆さんが前日に仕込んでいる様子ですが、「久留米でやったイベントと変わらないぐらい、いい環境でさせてもらってありがたい」と言う話も聞いておりました。現在につながる麺遊会のイベントの形を最初に作ったのが彼でした。

もうひとつ、運営が問題でした。私たちはこれまで3000人ほどの来場者にしか対応したことがなかったのですが、このイベントは3万人を想定していたので、運営をどうするという問題があり、それを準備段階から一緒になって考えてくれたのが「村上祐二」さんです。村上さんの写りの良い写真を探したのですが良いものがなくて。この写真は、実行委員会の時の写真ですが、夜な夜な、みんなが実行委員会に集まって、いろいろ苦勞もあったけどこのイベント楽しかったですよ。今もそうですけど村上さんは、頭の回転が早く行動力があって、多くの人をさばきながらイベントを安全に行ってくれた影の立役者でもありました。今日は紹介できませんが、同期の皆さんにも助けられて本当にありがたく思っております。こんな形で十六番倉庫から5年、釧路市、北海道にもご協力をいただいて初めての大規模なラーメンイベントを行い、これまで麺遊会が10数年にわたり「ら・フェスタ」を開催してきましたが、これが麺遊会の原点となるイベントでありました。

この一覧は、全てではないのですが2000年から始まった取り組みを2023年の設立20周年までを書かせてもらいました。われわれが動員した延べ数は70万人以上、二十数年の間で提供したラーメンは25万食以上。数字が全てではないですが、確かに麺遊会が歩いてきた足跡は残っていると思っております。

私は2003年から2008年までが麺遊会の会長だったので、期間は短かったのですが、30代の勢いだけでいろんなことをさせてもらい、皆さまにはご迷惑をおかけしたと思います。また、当時周りにいた大人の皆さまのおかげで、私のような若者がこういうことが経験できたということは、今でもありがたく思っております。当時、ご協力いただいた皆さまの中にはすでに亡くなっている方もおります。その方々には恩返しはもうできないですが、今私はその世代になりました。社業などを通じて、次の世代に返して行くのがこれまでご恩をいただいた私の役割かと思いがながら、今回の資料を作らせていただきました。

麺遊会は現在もいろいろ活動をしております。本日のお話を頭の隅に入れていただきながら、いろいろな想いをもって作っている店主の方々がございますので、ぜひ、叱咤激励も含めて麺遊会をこれからもよろしく願いできればありがたく思います。

時間のない中、このような話を聞いていただきまして本当にありがとうございました。

以上でございます。

本日のニコニコ献金

■荒井 剛君 先日エスコンフィールドに行き、選手のピンバッチのガチャを回したら、一発で推しの野村選手のバッチが当たりました。

今年度累計 367,420 円